

「日報」を「廃棄した」という「虚偽」の説明の上に、そのつじつま合わせのため、実際に「隠蔽」を図った。南スーダンPKO(国連平和維持活動)に派兵されている陸上自衛隊部隊の「日報」をめぐり、深刻な事態が新たに明らかになりました。防衛省・自衛隊が「廃棄した」としていた「日報」のデータが陸自内で保管されていたことが判明し、「廃棄」そのものが虚偽だったというのです。しかも、陸自内に「日報」はないという説明との整合性を取るため、後になって消去した疑いが濃厚になっていきます。稲田防衛相の資格がいよいよ問われます。

徹底した真相究明必要

「日報」は、昨年7月に南スー

主張

陸自の「日報」廃棄

ダンの首都ジュバで政府軍と反政府軍との間で発生した大規模な武力紛争について、安倍晋三政権の「衝突」などという説明とは全く異なり、「戦闘」と明記し、その実態を生々しく記録したもので

データが保存されていたとして、一部が今年2月7日に公表されました。ところが、今回、統幕だけではなく、陸自内にもデータがあったことが明らかになりました。

陸自内では「用済み後廃棄」となっていると繰り返し答弁していましたが、稲田氏は、虚偽答弁を重ねてきたことになりました。しかも、陸自内にデータが保管されていたことを知っていたとすれば、責任は極めて重大です。

います。なぜ、公表が遅れたのか、今年1月中旬に陸自内でデータが見つかったことと無関係ではないのかわからないか、消去の指示は一体誰がしたのか、防衛省・自衛隊の組織ぐるみの隠蔽工作ではないのかなど、事実関係の徹底した説明と責任追及は不可欠です。

昨年9月30日に情報公開請求が

管されていた問題は、日本共産党

加えて大問題なのは、陸自内に

稲田氏をめぐっては、「日報」

虚偽の上に隠蔽を重ねる異常

「日報」のデータが保管されていたことが今年1月中旬に判明し、それまでの

稲田氏をめぐっては、「日報」をめぐり隠蔽問題だけではなく、学校法人「森友学園」との関係をめぐる国会での虚偽答弁も厳しく追及されています。

され、12月2日に防衛省は、「日報」を作成した陸自派兵部隊も、報告を受けた陸自中央即応集団司令部も、文書もデータも既に「廃棄」したため不存在だとし、不開示の決定をしました。その後、陸海空自衛隊をまとめる統幕僚監部(統幕)内で「日報」の

の笠井亮政策委員長が2月14日の衆院予算委員会で追及してしました。陸自には、海外派兵部隊から送られてくる報告資料などを蓄積するデータベースがあり、そこに「日報」も保存されていた可能性を指摘していました。

統幕内で発見された「日報」のデータが公表されたのは今年2月7日です。見つかったのは1カ月以上も前の昨年12月26日とされて

稲田氏に閣僚としての資格がないのは明らかであり、辞任すべきです。稲田氏をかばいだてし続ける安倍首相の責任も厳しく問われています。